

王 可心

国際電気通信基礎技術研究所 (ATR) 石黒浩特別研究室 研修員



自由会話における「楽しい笑い」と「愛想笑い」のパターン と音声的特徴の分析

笑いは日常生活に頻繁に現れます。その一面では生理現象であり、感情表現であり、一面ではコミュニケーションの一形態です。笑い声 (laughter) には様々なバリエーションがあり、個人性によって大きく変化します。楽しい時や滑稽なことを見たり聞いたりする時に産出する「自発的な笑い」 (spontaneous/mirthful laughter) のような、愉快的な感情に関連するだけではなく、「意図的な笑い」 (intentional/social laughter) のような相手に対して配慮を示し、意思を疎通させるといった社会的な機能もあります。

私たちは、ATR で収録された三者自由会話データベースを用いて、笑いの種類と笑いパターンのアノテーションを行い、両者の間にどのような関係があるかについて分析しました。さらに音響分析を行い自発的な笑いと言図的な笑いにはどのような差異が見られるかについて検討しました。本研究の成果の応用として、対話相手の笑い声の意図理解や自然で表現豊かな笑い声の合成音声生成などが考えられます。

“Not all laughs are alike” (Bachorowski and Owren, 2001)

